

## めがねのまちさばえゼロカーボンシティを目指して

鯖江市では、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」に取り組むことを表明します。

### § 排出実質ゼロとは

二酸化炭素などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成すること。

### § 背景

近年、世界各地では地球温暖化の進行により、猛暑や豪雨など異常気象による災害が増加しており、我が国においても、全国各地で集中豪雨や台風の巨大化による甚大な被害が発生しています。本市においても、生命や暮らしが脅かされる事態が身近に迫るなど、まさに気候危機というべき状況であり、その対策は不可欠なものとなっています。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されるとともに、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、この目標の達成には「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」と示されています。

こうした目標の達成に向け、環境省では、全国の自治体に「ゼロカーボンシティ」の表明を呼びかけており、2020年には、「2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにし、脱炭素社会の実現を目指す」との政府方針が示されました。

### § CO<sub>2</sub>（二酸化炭素）排出量（部門分野別）現状 ※2018年度

鯖江市の CO <sub>2</sub> 排出量	合計	589,000 t	<100%>
■ 産業部門		232,000 t	< 39%>
■ 業務その他部門		80,000 t	< 14%>
■ 家庭部門		147,000 t	< 25%>
■ 運輸部門		121,000 t	< 21%>
■ 一般廃棄物分野		9,000 t	< 1%>

※環境省「地方公共団体実行計画（区域政策編）策定・実施マニュアル（算定手法編）（Ver.1.0）（平成29年3月）の標準的手法に基づき統計資料の按分により地方公共団体別部門・分野別の排出量を推計した値

### § 鯖江市が現在行っている主な取組内容

#### COOL CHOICE の普及促進

地球温暖化防止や省エネに対する取組を、後援会、パネル展示、COOL CHOICE を題

材にした創作落語・紙芝居を通じて内容を分かりやすく説明し、高齢者や小中学生、ファミリー層への浸透を目指す取組

◆以下は鯖江市環境教育支援センター（エコネットさばえ）との協働事業

#### 環境フェア

全市民向けの環境啓発イベント

#### 地球温暖化防止のための「どんぐりからの森づくり事業」

企業と市民が相互に連携し、主体的に地球環境保全・温暖化防止のため協働することを目的とし、平成17年度から、毎年2,000本の苗木を植樹

市内全小学校の3～6年生の児童が、どんぐりの育苗、植樹と地球温暖化について学習

\*「低炭素杯2017」（現在の脱炭素チャレンジカップ）で優秀賞を受賞

#### かんきょう市民大学・環境井戸端会議

環境に関する知識・意識を高め、環境に配慮した行動ができる市民を育成することを目的に講演形式の学習会やディスカッションの場づくりなどを開催

#### 廃棄物分別啓発・ごみ減量化資源化市民啓発事業

市内全155町内で住民対象「ごみ減量・分別資源化の説明会」を開催。資源循環、低炭素社会実現の啓発を実施

#### 環境学習の企画実施

各小学校をはじめ各種団体に環境講座の出張教室を実施（年間約100～150回）

#### 環境リーダー養成講座

地域、職場等における環境リーダーを養成することを目的に環境教育指導の手法や、環境に関するスキルアップに資する内容の講座を開催

#### こどもエコクラブ活動交流会への支援

小中学生の地球環境保全活動の推進や環境教育・学習の一環として「こどもエコクラブ」活動への支援を行い、将来の環境行動の核となる人材を育成

#### 生ごみたい肥化事業

循環型社会を構築するため、家庭から出た生ごみを自分たちでたい肥化し、ごみの減量化を図る取組

## § その他

鯖江市環境基本計画を令和3年度に見直しを予定しています。この改定の中で、2050年二酸化炭素排出実質ゼロを見据えた具体的な施策・取組を検討します。